

平成 15 年 6 月 9 日
全国内水面漁連

外来魚についての意見

河川形態の変化、流量の減少、水質の悪化に加えてアユの冷水病、野鳥カワウのばっこ、ブラックバス等外来魚の生息域の拡大は、内水面漁業の存続を左右する重大な問題となっているが、ここに全国内水面漁連として外来魚問題について意見を述べる。

1. 密放流により全国各地にまん延中の外来魚の分布（漁業権漁場のみ）

- ①オオクチバス 47 都道府県（362 漁業権漁場（河川 305、湖沼 57））
- ②コクチバス 34 都県（106 漁業権漁場（河川 89、湖沼 17））
- ③ブルーギル 45 都道府県（254 漁業権漁場（河川 211、湖沼 43））

（平成 15 年 3 月、全内漁連調べ）

2. 外来魚が増えたことによる内水面漁業への影響

- ①食害による増殖効率の低下（漁業権魚種への影響あり……305 漁業権漁場（河川 257、湖沼 48））。
- ②バサアの増加による遊漁者の減少（漁場の占拠、風評被害）。
- ③啓発や駆除、買取経費の負担増（172 漁業権漁場で実施、支出した経費 3,500 万円、人件費・雑費含まず）。

（平成 15 年 3 月、全内漁連調べ）

3. 密放流防止対策と駆除について

- ①外来魚対策は漁協の義務ではないが、啓発、駆除、買い取りなど自衛策として取り組んでいる。
- ②国や県の補助事業を実施するには自己負担が必要ある。この負担が漁協の運営に支障をきたしている。

4. 外来魚に対する遊漁者の意識

- ①内水面における遊漁者数は延べ 13,146 千人（農水省統計情報部、平成 10 年）。
- ②近年、溪流魚を対象とするルアーフィッシングの普及でバス釣りも増えているが、内水面における全遊漁者数の 10% 程度か。
- ③「釣り＝バス釣り」ではない。「ルアー釣り＝バス釣り」でもない。バスを釣る人は、「バサア」、「バス釣り」というべき。
- ④本会でフライ、ルアーの釣り人のアンケート調査を行っている。その結果（200 人分）は別添のとおり。

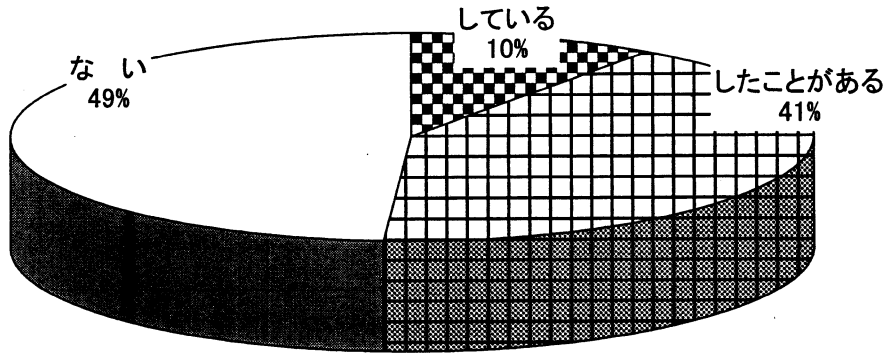
5. 外来魚問題を解決するための考え方

- ①「新・生物多様性国家戦略」のリストに載っている外来魚は排除すべき。
- ②現状を目の前にして考えれば、すみ分けや封じ込め論も一つの方法ではあるが、現状では解決策どころか逆効果。
- ③国内への持ち込み、移動等を規制するための法整備が必要。
- ④駆除技術の開発を進め、国民運動として駆除活動を推進する。
- ⑤時間をかけ、啓発、駆除を繰り返し、密放流がなくなれば根絶できるはず。
- ⑥特に青少年に対する外来魚密放流防止のための啓発は必要。
- ⑦ルアー対象魚はバスだけではない。在来種を復活させるための事業を推進する。

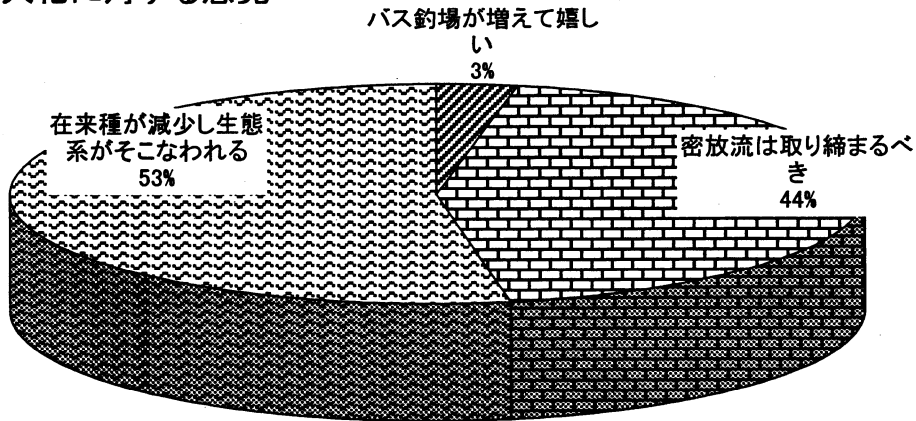
外来魚についての(釣り人への)意識調査

関東地方の釣り人200人を対象に調査
H15.5.1～3日間

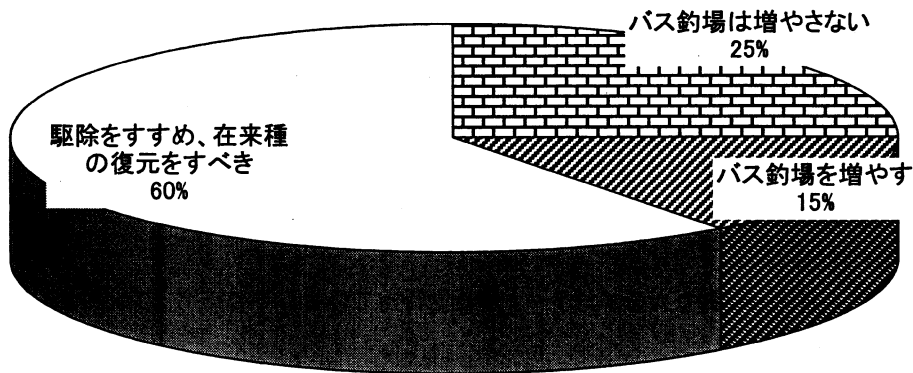
問1.あなたはバス釣りをしたことがありますか



問2.生息域拡大化に対する意見



問3.今後、この問題をどうすれば良いと考えますか



○釣魚者200人の内訳

